

昭和八年創業

恵命我神散

国産薬用植物
「ガジュツ」を
使用した胃腸薬。

「恵」

「命我神散」は、日本産の薬用植物「我菴」を使った胃腸薬だ。原産はインド、ヒマラヤ地方。ショウガ科、クルクマ属の多年草で、根茎を薬用とする。日本では江戸時代の古文書に、ガジュツに関する記載を見つけることができる。

『種子島家譜』には、島津義弘公の薬方伝授状に、さまざまなガジュツの効用や厳しく統制されていたことが記載されている。薩摩藩置居後は、屋久島で胃の不調に用いる民間薬として使われていた。

「恵命我神散」の製造・販売を手がける老舗恵命堂は昭和八年創業。創始者である柴昌範は「病に苦しむ人を助け、命を救うことほど尊い事業はない」と、「恵命我神散」を世に送り出



創始者の
柴昌範



し、生薬のみでできていた健胃薬として現在まで長く販売されている。

屋久島と種子島の土壌が育む有効成分の多いガジュツ

成分は八三パーセント以上がガジュツで、ほぼガジュツそのものだ。栽培から加工まで、現在も屋久島と種子島で行っている。ガジュツは沖縄、台湾など、ほかの地域でも栽培されているが、育つ土壌や環境で成分が変わって

「恵命我神散」「恵命我神散S」[第2類医薬品]
独特の苦味と清涼感が特徴の散剤タイプ
「恵命我神散S〈細粒〉」[第2類医薬品]
口の中に残らない飲みやすい細粒タイプ
ガジュツに、胃の働きを活発にし、胆汁分泌を促進し脂肪の消化を高め胃粘膜を修復する作用がある。

【効能・効果】
食欲不振(食欲減退)、
胃部・腹部膨満感、消化不良、
胃弱、食べ過ぎ(過食)、
飲み過ぎ(過飲)、胸やけ、
もたれ(胃もたれ)、胃つかえ、
はきけ(むかつき、胃のむかつき、
二日酔・悪酔のむかつき、
嘔気、悪心)、嘔吐



右・ガジュツはショウガ科の植物で、赤紫色の鮮やかな色のがくが特徴。根茎の部分が生薬となる。
左・ガジュツの断面。紫色であることから、紫ウコンとも呼ばれる

しまう。老舗恵命堂では成分的に安定した屋久島・種子島のガジュツを株分けし、増やしているので、薬用として有効な品質のガジュツが栽培できるといふ。

毎年四月に植え付けを行うと、五月下旬には発芽し、翌年の二月から四月にかけてが収穫の時期だ。栽培時に除草剤を使わないため、ガジュツづくりは雑草との戦いという。掘り出し作業が重労働であるため、農家に対して掘り出すときの機械を貸し出すなど、サポートを行っている。収穫したばかりのガジュツを割ると、真白な根茎の中うつつすらと紫色が混じった独特の色合いで、ショウガにも似たガジュツ特

有の香りがする。

収穫したガジュツは三〜五ミリにスライス、八五〜九五℃で乾燥した後、微細粉にする。ここに、粘膜を保護する働きのある真昆布末を加えて完成。

漢方の原料加工を行う煮る工程を入れずに製品化するのが、創始者柴のこだわりだったという。粉末になった「恵命我神散」も微かにショウガのような香りがする。

屋久島・種子島産ガジュツの作用をそのまま活かした「恵命我神散」。今は鹿児島のみならず、全国に販売を拡大している。知る人ぞ知るガジュツの効能が「恵命我神散」には凝縮されているのだ。●(文・野村麻里)